

三股町文化財報告書 第6集

ミ マタ チョウ ナイ イ セキ
三 股 町 内 遺 跡 IV

2004年

宮崎県三股町教育委員会

三股町文化財報告書 第6集

三股町内遺跡Ⅳ

2004年

宮崎県三股町教育委員会

序

三股町教育委員会では、近年の開発事業等の増加により、埋蔵文化財の保護と諸開発との調整が大きな課題となっており、平成6・7年度に実施された町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発に伴う遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところであります。本書は平成15年度に実施された試掘・確認調査の報告書であります。特に平成12年度より継続調査しております宮ノ原地区につきましては、徐々に遺跡の性格等も把握しつつあります。この調査が、開発と埋蔵文化財の保存とが共存しうるきっかけとなり、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力頂いた関係諸機関並びに地権者の方々に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

三股町教育委員会

教育長 中西 泰 昌

例 言

1. 本書は、三股町教育委員会が国・県の補助を受けて、平成15年度に実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 遺跡の名称は小字名による。
3. 調査体制は以下の通りである。
調査主体 三股町教育委員会
教 育 長 中 西 泰 昌
生涯学習課長 柳 橋 一 彦
同 課長補佐 内 村 陽一郎
兼 係長
主 任 楠 見 千穂子 (庶務担当)
主任主事 黒 木 欣 綱 (調査・執筆・編集担当)
4. 本書に使用した写真は、黒木が担当した。
5. 報告書中の方位は磁北である。
6. 出土遺物・その他諸記録は三股町教育委員会で保管している。



本文目次

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査	1
2. 下鷹遺跡群の確認調査	5

挿図目次

第1図 基本土層柱状図	1
第2図 周辺遺跡位置図(外戸口・中原・下鷹遺跡群)	5

図版目次

図版1 宮ノ原地区基本土層	1
図版2 宮ノ原地区調査状況-1	2
図版3 宮ノ原地区調査状況-2	3
図版4 宮ノ原地区遠景(北から)	4
図版5 宮ノ原地区遠景(西から)	4
図版6 下鷹遺跡群調査状況	6

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は三股町の西部に位置し、北部は萩原川、南部は年見川に囲まれた平地で、現況は広域な畑地帯となっている。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば外戸口遺跡群は弥生、古墳、平安時代の包蔵地となっており、南部に隣接する中原遺跡群は縄文、古墳、平安時代の包蔵地となっている。但し、外戸口遺跡群についても平成12～14年度の確認調査により縄文時代の遺物が出土している。表採が多く遺構に伴うものではないので、今後の調査に期待したい。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、平成12年度から継続して実施しているものであり、宮ノ原地区における県営畑地帯総合整備事業に起因している。計画区域が127haという広範囲に及ぶ事業であり、計画的な調査が必要であり、三股町役場耕地課の協力のもと土地所有者との調整を行いつつ、試掘・確認調査を実施している。調査の結果をもとに、畑地帯では集水路の設置工事が行われており、協議材料として今後とも調査の継続が必要となるであろう。

[調査の内容]

調査はトレンチ法（2m×3m）で実施した。事業計画内の町道脇の畑地をその調査対象地とし、主に休耕地を選び、土地所有者との調整を行いつつ調査を実施した。

平成12年度では23箇所の試掘・確認調査を実施し、13年度は16箇所、14年度は20箇所、本年度は15箇所の試掘・確認調査を実施した。層位は第1図のとおりだが、黒色土層、暗褐色土層が包蔵層であることが確認されており、開発時には慎重に対処していただいている。遺物は概ね小片が多く、時期の確認はできないが、平成12・13・14年度同様縄文・弥生・古墳時代のものと思われ、周知の遺跡としている当遺跡（S7・S8）はその範囲の修正を検討している。

表	土
黒	色 土
暗	褐 色 土
黒	褐 色 土
御	池 軽 石 層

第1図 基本土層柱状図



図版1 基本土層断面



トレンチ 50



トレンチ 51



トレンチ 52



トレンチ 53



トレンチ 54



トレンチ 55

図版2 宮ノ原地区調査状況一1



トレンチ 56



トレンチ 57



トレンチ 58



トレンチ 59



確認調査実施地



作業風景

図版3 宮ノ原地区調査状況—2



図版 4 宮ノ原地区遠景（北から）



図版 5 宮ノ原地区遠景（西から）

2. 下鷹遺跡群の確認調査

【遺跡の位置と環境】

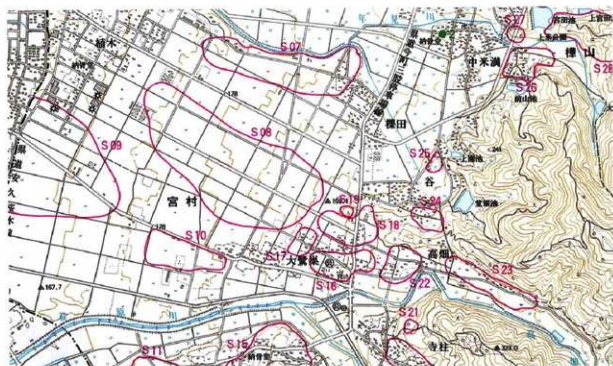
当地は、三股町の西部、大字宮村字一万城2768番2で都城市境に隣接する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば、弥生時代の包蔵地とされる下鷹遺跡群に当たる。現在継続して確認調査を実施している中原遺跡群の西方に位置し、相互の遺跡性格の把握も視野に入れた確認調査となった。外戸口遺跡群、中原遺跡群、下鷹遺跡群の位置は 第2図に併せて示した。

【調査に至る経緯】

今回の調査は、KDDI株式会社による無線通信基地局建設に伴う確認調査である。確認調査は、平成15年12月3日から同年12月8日の間で実施した。調査は、開発予定面積約440㎡に対して、約3m×3mのトレンチを3箇所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

【調査の結果】

調査の結果、3箇所のトレンチのいずれからも遺構・遺物は検出されなかった。当地は都城市水道局の管理地で配水池も隣接しており、一部造成等による攪乱も見られた。



- S07：外戸口遺跡群 S08：中原遺跡群 S09：下鷹遺跡群 S10：上鷹遺跡群 S11：下水流遺跡
S15：平原遺跡 S16：畑田遺跡 S17：西原遺跡 S18：岡下遺跡 S19：岡之元遺跡 S21：前畑遺跡
S22：尾崎遺跡 S23：高畑遺跡 S24：和田遺跡 S25：中村遺跡 S26：山内遺跡 S27：山下遺跡

第2図 周辺遺跡位置図 (1:25,000)



トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



作業風景



調査対象地 (東から)



調査対象地 (西から)

図版 6 下鷹遺跡群調査状況

報告書抄録

フリガナ	ミマタチウナイイセキ
書名	三股町内遺跡Ⅳ
シリーズ名	三股町文化財調査報告書
シリーズ番号	第6集
編集者名	黒木欣綱
発行機関	宮崎県三股町教育委員会
所在地	宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1
発行年月日	2004年3月31日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
外戸口遺跡群	三股町大字禰山字 外戸口、出水、八谷、 向原			2004.1.28 ～ 2004.3.31	48㎡	県営畑地帯 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
散布地	弥生・古墳時代	柱穴・土坑		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中原遺跡群	三股町大字宮村字 中原、北原、西原			2004.1.28 ～ 2004.3.31	32㎡	県営畑地帯 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
散布地	縄文・古墳時代	柱穴・土坑		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
下鷹遺跡群	三股町大字宮村 字一万城			2003.12.3 ～ 2003.12.8	27㎡	無線通信 基地局建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
包蔵地	弥生時代	なし		なし		

三股町文化財調査報告書 第6集

三股町内遺跡Ⅳ

2004年3月

発行 宮崎県三股町教育委員会

〒889-1995

宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1

TEL 0986-52-1111

印刷 株式会社 文 昌 堂

〒885-0052

宮崎県都城市東町18街区1号

TEL 0986-22-1121